

平成 25 年度前期 法医学講義試験問題

学籍番号： _____ 所属・学年： _____

氏名： _____

問題 1. 法医学でいう「異状死体」とは何か (5 点)。

問題 2. わが国の大部分の地域のように、監察医制度が機能していない現状がかかえる問題点を述べよ (5 点)。

問題 3. 法医学上の生活反応にはどのようなものがあるか (7 点)。

問題 4. 生活反応が有する法医学上の意義を述べよ (5 点)。

問題 5. 死体現象を分類して述べよ (12 点)。

問題 6. 損傷を分類して述べよ (12 点)。

問題 7. 法医学上の窒息をもたらす原因を、手段別に列記せよ (7 点)。

問題 8. 児童虐待について述べよ (6 点)。

問題 9. 広義の血液型とは何か (5 点)。

問題 10. 個人識別の検査対象となりうるものを列記せよ (6 点)。

問題 11. 以下の文章が正しいければ○を、誤っていればその理由を、
()の中に記せ。(1問2点;計30点)

- 1) わが国の法医学の開祖である片山國嘉博士は、明治新政府から
欧州に留学生として派遣され、主にドイツやオーストリアなどで
大陸法の影響をうけた法医学を研鑽して帰国した。
()
- 2) よく切れる刃部や、とがった先端によって生じる損傷を鈍器損傷と
いい、重篤な失血を招いて死因となることが少なくない。
()
- 3) 外傷性ショックとは、外傷によっておこる様々なショックの原因を
統合した死因概念であり、単独または複合的な原因が含まれる。
()
- 4) 焼死は、各々単独でも死因となりうる要因、すなわち、高熱、有毒
ガス、水分欠乏が複合的に作用した結果、死を招いたと考えられる。
()
- 5) 焼死の全身性生体反応の一つに、血液中の還元ヘモグロビンを証明
することが挙げられる。
()
- 6) 毒物とは、無機物、有機物を問わず、その化学作用によって比較的
大量で臓器機能を害したり、生命を奪ったりするものをいう。
()
- 7) わが国の薬物濫用(乱用)は、第2次世界大戦後の第1次覚醒剤濫用
から、第2次覚醒剤濫用やシンナー等の濫用を経て、近年は向精神
薬や睡眠薬などの濫用や密売が増加している。
()

- 8) わが国の刑法上は、胎児の全身が母体外に露出した時点をもって人の出生としている。
()
- 9) 死後時間の経過した嬰兒死体から胎齡(子宮内にいた期間)を推定する場合、体重よりも身長に基づく方が信頼度が高い。
()
- 10) 嬰兒の生産及び死産の鑑別法として、肺浮遊試験がある。これは、呼吸によって肺組織の比重が 1 より小さくなる現象を用いている。
()
- 11) 白骨死体では、小児のときから外見上、男女の鑑別は容易である。
()
- 12) 急死とは、通常、発症から死亡するまで 48 時間以内の場合をいい、突然死という表現が用いられることもある。
()
- 13) 乳幼児の急死の原因の一つに乳幼児突然死症候群があるが、この原因は、横隔膜の先天性異常に基づく肺の拡張不全である。
()
- 14) 医療行為として認められる条件として、治療を目的とし、医学上、認められた方法で、患者や代理人の承諾があることが挙げられる。
()
- 15) 1964 年に出され、その後、何度か改訂されているヘルシンキ宣言は、人を対象とする医学研究の倫理的原則を述べている。
()

(以上で問題は終わり)